

まちの ニュース

お年寄りの元気と長生きを願う敬老会

長年にわたり、地域社会に貢献してきたお年寄りに敬愛と感謝の気持ちを込めて長寿を祝おうと9月12、14の両日、市内7会場で敬老会を開催しました。

12日は松尾地区1会場、安代地区2会場で、14日は西根地区4会場それぞれ開催。対象となった75歳以上の人は、西根地区で2610人、松尾地区で1111人、安代地区



田村市長から記念品が贈られました(寺田地区)



地域の園児や小学生などが歌や踊りを披露し、参加したお年寄りを元気づけました(松尾地区)

で1284人で、市全体では5005人になりました。

式典で田村正彦市長は「皆さんのこれまでの経験は、まちづくりをするうえで重要な財産です。地域の行事に参加するなどして、私たちに語りついでください」とあいさつしました。

節目の年を迎えた77歳、88歳、89歳、99歳、百歳以上の人にはそれぞれ市から湯飲み茶碗や座布団などの記念品を贈呈。式典後に開催された懇親会では、地域の園児や小学生などが日ごろの感謝の気持ちを込めて歌や踊りを披露し、出席したお年寄りを楽しませました。



↑地域の住民が、自分たちの手で舗装作業を行います

←重機なども地域の建設会社から借りて、自分たちで操作



松尾地区地域振興協議会と中郡自治会は9月16日、協働のまちづくり事業の一環として、地域住民による道路舗装作業を行いました。

この日は、地域住民23人がボランティアで参加し、集落内の延長55㍍、幅3㍍の未舗装市道の簡易舗装作業を実施。住民がスコップで舗装用資材をならす作業などで汗を流しました。

同協議会などによる協働のまちづくり事業「中郡鎮守の森整備事業」では、約48万円の補助金で2路線の道路舗装を実施。7月には、高齢者や保育所の園児の通行が多い寄木保育所に通じる路線を舗装しています。

参加した市民は「少しでも地域のために貢献できれば」と笑顔を見せながら作業をしていました。

地域のチカラで協働の「まちづくり」

大地の恵みに感謝する祭典が華やかに

伊那那伊沢神社の祭典は9月15日、松尾地区野駄の同神社境内などで行われました。「ヤーレ、ヤーレ」と威勢のいい掛け声を上げる小学生の太鼓打ちを乗せた山車と、松野保育所の園児の子ども山車が元氣よく地域を練り歩きました。



山車に乗って地域を巡る子どもたち

名前が入ったカボチャに園児も大喜び

市農業委員会は9月11日、食農教育事業の一環として、大更保育所の園児とカボチャの収穫を行いました。

このカボチャは6月に園児と一緒に苗を植えたもの。一つ一つのカボチャには植えた園児の名前を刻んであり、自分の名前が入ったカボチャを見つけた園児は歓声を上げて喜びました。このほか、平館保育所の園児ともトウモロコシ栽培を行っており、10月の収穫祭で味わう予定です。



カボチャを収穫して喜び大更保育所の園児たち

成人講座「おしゃれな洋菓子教室」は9月4日、平館公民館で地域の女性など14人が参加して行われました。

盛岡市でお菓子教室を主宰する小原薫さんを講師に招き、グレープフルーツのムースと栗をあしらったクリーミープリン作りに挑戦しました。講師の指導を受けながら、手順を確認。出来上がったお菓子を試食した参加者は、満面の笑みを浮かべて自分たちの作品を味わいました。



講師の指導を受け、お菓子作りに挑戦する参加者

おしゃれなお菓子でお茶しませんか？

元気なプレーで会場を沸かせました



第36回岩手県スポーツ少年団ソフトボール大会は9月8、9の両日、田山多目的グラウンドと安代小学校グラウンドを会場に開催されました。予選を勝ち抜いた女子16チームと男子12チームが出場。東北大会への切符をかけて熱戦が繰り広げられました。

東北大会を目指して児童が白球を追う

長寿の願いを縫いこんだ紫薫のまくら

平舘高校(受川彰校長、生徒327人)の家庭クラブは8月31日、お年寄りへの感謝と長寿の願いを込めて手作りの130個の「紫薫枕」を市へ寄贈しました。

この枕は敬老会でお年寄りにプレゼントするために作られているもので、今年で44回目。市内の北舘製麺が提供したソバ殻を使用し、家庭クラブ員が手縫いで仕上げました。地域からも好評で、10月の文化祭で一般にも販売されます。



枕を市に寄贈した家庭クラブの役員

廃油から微生物パワーでエコせっけん



廃油とEM菌などを混ぜ、せっけん作りに挑戦する参加者

畑公民館で9月10日、使用済みのてんぷら油などの廃油を使った、せっけん作り教室を行いました。

地域の女性など10人が参加。有用微生物群(EM菌)を研究するEMネット八幡平代表の畠山英夫さん(野駄)を講師に迎え、廃油からせっけんやクレンザーを作りました。

環境に優しいだけでなく、とても汚れが落ちると参加者に好評で、この教室は定期的に開催されています。

働くことを通じて、職業への

理解と社会での役割を学ぼうと、松尾中学校(工藤保校長、生徒173人)は8月28日、農業・職場体験を行いました。

1年生59人は市内の農家で農業を体験。2年生の47人は市内のほか盛岡市の企業などを訪問し、職場体験を行いました。

生徒たちは、農業や観光など地域を代表する産業に触れるとともに、社会人として働くことの意義を学びました。

額に汗して働くことの意義を学びます



農業体験に汗を流す生徒たち



見事な包丁さばきに大勢の人が見入りました

市商工会と大更商店街活性化推進委員会は8月25、26の両日、トクトク戸板まつりをフーガの広場で開催しました。物産販売や屋台に大勢の人が詰め掛け、にぎわいを見せました。中でも盛り上がったのは、マグロの解体ショー。52キのマグロを見事な包丁さばきで解体し、切り身の試食と特価販売に行列ができました。このほか、25日の夜にはビアガーデンも開かれ、来場者を楽しませました。

お楽しみが盛りだくさんの戸板まつり

伝承の舞を奉納し、実りの秋に感謝を

秋の実りに感謝をささげる曲田正観音神社祭礼は9月23日、同神社などで行われました。

子どもから大人まで、地区の多数の踊り手が市無形民俗文化財の曲田先祓いを披露。刀や扇などを手に踊りながら

地区内を練り歩きました。曲田先祓いは、太鼓や笛の音に合わせて踊る伝統芸能で、地域が一体となつて伝承に取り組んでいます。

曲田公民館では、同地区の祭りも行われ、演芸会などが会場を大いに盛り上げました。



↑刀や扇を手に持ち、色鮮やかな衣装で曲田先祓いを奉納

→地区内を踊りながら練り歩き、奉納する神社を目指します



高橋タマヨさん(平館)と工藤チヨさん(大更)は9月20日、100歳の誕生日を迎えました。

田村正彦市長は高橋さんが入院する東八幡平病院、工藤さんの自宅を訪問し、お祝いの花束などを手渡ししました。

2人はともに明治40年9月20日生まれ。高橋さんは奥州市水沢区の出身で、地域の集會や冠婚葬祭などに積極的に参加し、料理の腕を振るっていました。「ならぬ堪忍するが堪忍、負けるが勝ち、神様が見ている」が口癖で、家族は「し



田村市長からお祝いの花束を贈られ、笑顔を見せる工藤さん

工藤さんは、大更地域の太石平出身。針仕事が得意で、今でも自分で着る丹前などを作っています。また、テレビで相撲を観戦するのが好きで、週に1度は「デイサービスに通っています。そんな元気な工藤さんは、長生きの秘訣を「規則正しい生活をするということです」と語っていました。

2人はともに誕生日を祝う大勢の家族に囲まれ、暖かい笑顔を見せていました。

んの強いところが長生きにつながったのかな」と話していました。



お祝いに駆けつけた家族と高橋さん

100歳の誕生日を大勢の家族で祝福